

国際結婚妻の就業と彼女たちの2つの家族

平井 晶子 (神戸大学)

1. はじめに

地方における国際結婚の外国人妻については、嫁役割や母国への送金に注目が集まっていた。しかし、急速に高齢化する現在の地方社会では、就業者としての役割や地域活動の担い手としての重要性が増している。様々なタイプの新規の外国人住民が増える中、「先輩」として新規の移住者たちへのサポーター的役割も重要になってきている。

このような観点から、本報告では、兵庫県豊岡市の事例について、外国人妻たちの就業状況や社会活動の実態を明らかにする。同時に、結婚から10年以上が経過する中で変化してきた日本での家族（親族）関係と、母国の家族（親族）との関係についても検討する。

2. 資料と方法

本報告で用いるのは、おもに2019年から2021年まで実施した兵庫県豊岡市との共同研究「外国人住民に関する調査研究」において収集した資料である（調査の詳細は、豊岡市・神戸大学 共同研究報告書を参照）。とくに2019年に実施した「豊岡市外国人住民に関する調査（個人調査）」のアンケート調査、および2019年以降継続的に行ってきたインタビュー調査を中心的な資料とする。適宜、2010年代に当該地域で行った外国人妻への聞き取り調査やアンケート調査も使用する。

3. 国際結婚家庭の現状分析

(1) 国際結婚の増加と減少：日本のみならず韓国や台湾でも国際結婚は1990年代から2000年代にかけて増加し、2010年代に入ると減少する。当該地域でも同様の傾向が見られており、現在、豊岡市に暮らす外国人妻は概ね10年以上日本に暮らす「ベテラン」である。

(2) 国際結婚家庭の家族構成：かつての地方社会の国際結婚では、夫の親との同居が顕著であったが、現在は核家族が多い。夫の親がすでに亡くなっているケースもあるが、存命であっても非同居というライフスタイルを選ぶことが少なくない。

(3) 妻たちの就業：専業主婦や自営業者は少なく、多くが雇用労働者である。パートタイムでの就業が多いが、正規雇用で働く人もいる。

(4) 母国との関係：長く日本で暮らす中で母国との関係にも変化が見られる。送金や帰国頻度との関係から現状について分析する。

4. 結び

人口減少ならびに高齢化が著しい地方社会における外国人妻の多方面での活躍の実態を明らかにすることを通じて、地方社会の現状と、これからについての見通しをえる。高齢化や人口減少で都市部の先をゆく地方社会について検討することは、今後の日本社会のゆくえを考えることにもつながる。

主要文献・資料

佐々木祐・平井晶子編, 2023 (予定) 『1%の隣人たち 地方的世界に生きる外国人住民——仕事・暮らし・子育て』昭和堂。

藤井勝・平井晶子編, 2019 『外国人移住者と「地方的世界」——東アジアにみる国際結婚の構造と機能』昭和堂。
『2019年度 豊岡市・神戸大学共同研究 「外国人住民に関する調査研究」 報告書』

<https://www.city.toyooka.lg.jp/kurashi/foreign/1018830/1011099.html>

『2020—21年度 豊岡市・神戸大学共同研究 「外国人住民に関する調査研究」 報告書』

<https://www.city.toyooka.lg.jp/kurashi/foreign/1018830/1019934.html>

(キーワード：国際結婚、地方社会、人口減少社会)